

生活クラブ気候危機宣言

生活クラブは、パリ協定を踏まえた「2030年CO₂排出40%削減目標」を掲げるとともに、SDGs達成を目指した「第一次生活クラブ2030行動宣言」を行ないました。

ところが、近年の地球は人類の活動によって劣化し続け、人間らしく尊厳を持って生きるための基盤が揺らいでいます。

このため私たち生活クラブは、本宣言により、気候が危機的な状態にあることを広く共有するとともに5つの実践に全力で取り組むことを約束します。

【1】パリ協定とSDGsを踏まえた、これまでの取り組み

2015年に世界で合意されたパリ協定は「今世紀後半までに産業革命前からの気温上昇を2℃（努力目標1.5℃未満）に抑える」ことを目標としています。これを踏まえ生活クラブは2018年に、生協事業から排出するCO₂を2050年に限りなくゼロにすることを目指し、2030年までに40%削減する目標を掲げました。さらに2019年、生産段階におけるCO₂削減のため、省エネと創エネに関する自主基準を設定しました。生協事業における温室効果ガスの直接排出量（スコープ1）や電気などを利用した間接的排出量（スコープ2）だけでなく、その他の間接的な排出量（スコープ3）の削減もめざしています。

2020年6月度の生活クラブ連合総会において、2030年に向けた世界共通のゴールである持続可能な開発目標SDGsを踏まえ「第一次生活クラブ2030行動宣言」を採択しました。生活クラブはこれまでも、サステイナブルな社会を目指す生活協同組合として、国内自給力の向上（ゴール2,ゴール12）やガラスびんのリユース（ゴール12）、国産種による鶏卵・鶏肉の持続的な生産と消費（ゴール2）、再生可能エネルギーによる電気の共同購入（ゴール7,ゴール13）、生活困窮者等への支援（ゴール3）など、SDGsの17ゴールと169ターゲットにつながる様々な実践を積み重ねてきました。そしてこの度、関わるすべての人々とともに協同する力を合わせ、これまでの取り組みをさらに進めることを第一次行動宣言で約束したのです。

【2】ますます悪化する地球の環境と気候の危機

近年の地球環境は人類の活動によって劣化し続け、気候変動による甚大な自然災害が顕在化しています。食や福祉、教育、地域など、人間らしく尊厳を持って生きるための基盤が揺らいでいます。

日本でも、2018年の西日本豪雨や台風21号により甚大な被害が発生し、生活クラブの生産者にも大きな被害が生じました。2019年には台風15号、19号、21号と巨大台風が連続して直撃し、広範囲に激甚な被害が発生しました。生活クラブでも多くの生産者や会員単協、組合員が甚大な被害を受け、まさしく“気候が危機的である”ことに愕然とさせられました。

これらはまだ地球の平均気温が産業革命前から1℃程度上昇した影響に過ぎません。これからは温室効果ガスを減らす「緩和」だけでなく、過熱する気候への「適応」も人類にとって

喫緊の課題となったのです。

こうしたなか、パリ協定を踏まえて各国が提出した温室効果ガス削減目標を積み重ねても、目標達成には遠く及ばないことが明らかになり、各国には目標の見直しが求められました。ところが日本政府は、温室効果ガス排出 26%削減という低い 2030 年目標を見直さないまま安価な石炭火力に固執しており、その姿勢に国内外から批判が寄せられています。

また、ブラジルなどに生息している熱帯雨林は“地球の肺”とも呼ばれていますが、経済優先のためにこれらの破壊が繰り返される現実には気候の不可逆的変化をもたらしかねません。

【3】 サステイナブルな社会を実現するために

2018 年、IPCC（気候変動に関する政府間パネル）は『1.5°C特別報告書』で、このままでは早ければ 2030 年にも 1.5°Cを超えてしまうと警鐘をならしました。IPCC や UNEP（国連環境計画）はこの 10 年の取り組みが極めて重要であると指摘しています。そして地球の将来に直面させられる世界の多くの若者が“正義に反する”という抗議の声をあげています。

いまこそ私たちは、途上国の人々や未来の子どもたちにも想いを馳せ、これ以上の気温上昇をストップするための様々な選択と転換に真剣に取り組まなければなりません。化石資源に依存するグローバリズムの社会から再生可能エネルギーを自治し協同する社会に転換し、食料システムや都市のあり方の変革など様々なシステムチェンジに挑戦したいと思います。そして、消費者一人ひとりにも行動変容が求められていることを自覚しつつ、経済・社会システムとライフスタイルの後戻りのない大転換を推し進め、協同することや助け合うことに価値を置く、未来に希望の持てる社会を実現したいと希求します。

このため生活クラブは、地球の気候が人類の生存基盤を揺るがすほど危機的な状態にあることを広く共有するとともに、次の 5 つの実践に全力で取り組むことを約束します。

- 1) 生協事業から排出する二酸化炭素を 2050 年には限りなくゼロにすることを目指し、「2030 年 CO₂ 排出 40%削減目標」を前倒しして実現します。
- 2) SDGs 達成に貢献する「第一次 生活クラブ 2030 行動宣言」を着実に実行し、2022 年にはプラスチック削減対策等を含む第二次行動宣言にステップアップします。
- 3) 生協事業の柱である「持続可能な生産と消費」を確実に継続するため、対等な関係にある生産者と共に気候危機への適応に率先して取り組みます。
- 4) 気候危機を回避するための再生可能エネルギーの意義を内外に広め、再エネ電源構成割合が 6 割に及ぶ「生活クラブでんき」を利用する組合員の仲間を増やします。
- 5) 志を同じくする個人・団体と連携し、日本政府に対して 2030 年の温室効果ガス排出削減目標の引き上げなどを働きかけます。

2020 年 7 月 14 日

生活クラブ事業連合生活協同組合連合会
理事会